

第 1 回福島 WBC 会議

福島県におけるホールボディカウンターWBC による内部被ばく検査の現状と課題克服に向けて

日時： 2012 年 1 月 25 日 (水) 18 時～21 時
26 日 (木) 9 時～13 時

場所： 福島県立医科大学

臨床講義棟第 1 臨床講義室 (25 日)、講堂 (26 日)

福島県では、未曾有の地震、津波、原発事故を受け、発災から十ヶ月余が経過した今でも、住民の健康への不安や被ばくに対する理解が混乱しています。特に、外部被ばくの懸念のみならず、放射性降下物による環境汚染に伴う内部被ばくの検査が進みその解釈が問題となっています。そこで現在の諸問題点を科学的に協議し、WBCの精度管理のあり方から検査結果の解釈、さらに適正な WBC の利用などについて関係者の集まりを企画しました。

1 日目は、福島県における WBC 検査の現状認識と情報共有を目的としています。比較的早期に検査を始めた機関および精密 WBC による測定を行っている機関のご報告と、これらの結果について討議します。

基調講演として、東京大学大学院理学系研究科 早野龍五教授 (物理学) による、WBC 計測の現状と問題点について、専門的なレクチャーをお願いしています。

2 日目は、早野教授による福島県における放射線計測の役割とそれに必要なこと、長崎大学 松田尚樹教授による WBC の原理と計測法、さらに広島大学 細井義夫教授による内部被ばくの身体影響について、をそれぞれ講義頂きます。次にダイアログ形式で、現在 WBC 検査を行っている施設からの状況紹介、最後にパネルディスカッション形式により、福島における WBC の課題克服を目指す予定です。

主催：福島県立医科大学、長崎大学グローバル COE

事務局：〒960-1295 福島市光が丘 1 番地 福島県立医科大学 放射線健康管理学講座
宮崎 電話：024-547-1981、024-547-1701 FAX：024-549-6080
E-mail：m-miya@fmu.ac.jp

記録協力：福島県立医科大学 医療人育成・支援センター

第1回福島WBC会議

福島県におけるホールボディカウンター（WBC）による内部被ばく検査の現状と課題克服に向けて

第1日：内部被ばくに関する専門家ネットワーク会議

1月25日（水） 18：00～21：00 福島県立医科大学 第1臨床講義室

特別講師：	東京大学大学院理学系研究科	早野 龍五 教授
プレゼンター（発表順）：	日本原子力研究開発機構	栗原 治 先生
	放射線医学総合研究所	仲野 高志 先生
	南相馬市立総合病院	坪倉 正治 先生
	医療法人誠励会ひらた中央病院	松本 正人 先生
	広島大学	細井 義夫 先生
	長崎大学	松田 尚樹 先生

<プログラム>

第一部 現状認識の共通化

座長：広島大学 細井 義夫 先生

18：00	開会挨拶：	福島県立医科大学 山下 俊一 副学長
18：10～	福島県のWBCの現状：	宮崎 真 先生
18：30～	WBCの抱える様々な問題点：	早野 龍五 先生

第二部 実態把握（各実施機関からの報告）

座長：長崎大学 松田 尚樹 先生

19：15～	JAEAにおける福島県民先行調査の現状：	栗原 治 先生
19：30～	放医研における福島県民先行調査の概要：	仲野 高志 先生
19：45～	南相馬市立総合病院におけるWBC検査の現状：	坪倉 正治 先生
20：00～	ひらた中央病院におけるWBC検査の現状：	松本 正人 先生
20：15～	広島大学におけるWBC検査の現状：	細井 義夫 先生
20：30～	長崎大学におけるWBC検査の現状：	松田 尚樹 先生

第三部 総合討論

座長：福島県立医科大学 大津留 晶 先生

20：45～21：00

第2日 福島県ホールボディカウンター・ユーザーミーティング

1月26日(木) 9:00~13:00(予定) 福島県立医科大学 講堂

講師： 東京大学大学院理学系研究科 早野 龍五 教授
長崎大学先導生命科学研究支援センター 松田 尚樹 教授
広島大学原爆放射線医科学研究所 細井 義夫 教授

<プログラム>

第一部 基調講演

座長：福島県立医科大学 大津留 晶 先生

9:00~ 福島で放射能を測るということ (WBC、食品…その行く先は?)
東京大学大学院理学系研究科 早野 龍五 教授

9:40~ WBC 測定 の原理 と線量 への換算
長崎大学先導生命科学研究支援センター 松田 尚樹 教授

10:00~ 内部被ばくによる人体への影響
広島大学原爆放射線医科学研究所 細井 義夫 教授

10:20~ コーヒーブレイク

第二部 WBC ユーザーダイアログ

座長：福島県立医科大学 宮崎 真 先生

10:30~ (約1時間を予定)

WBC 施行機関による現状報告 (各所10分程度を予定)

第三部 パネルディスカッション

司会：福島県立医科大学 大津留 晶 先生、東京大学 早野 龍五 先生

第2部終了後~(13時終了予定)

パネリスト： 松田 尚樹、細井 義夫、宮崎 真、栗原 治

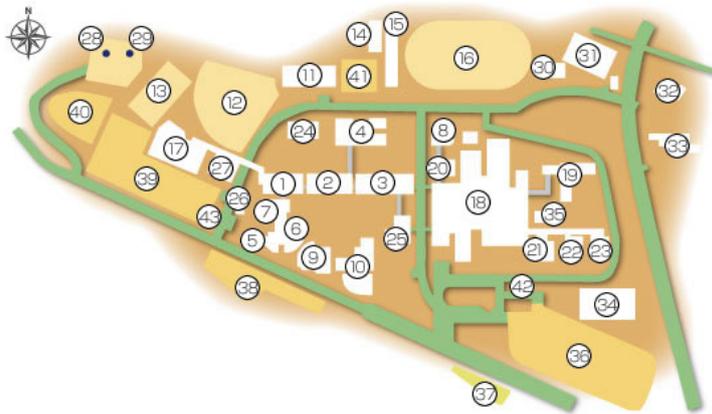
<本会を開催する目的>

内部被ばくに対する福島県の現状を科学的に、以下の3点を明らかにするため、叡智の結集とプラットフォームの構築を目的とします。

第一の目的は、災害初期の内部被ばく線量がどんなものであったか、を検討することにあります。福島県により、先行調査が行われていますが、少なくとも放射性セシウムによる初期内部被ばくは、ほとんどの方で1mSvを超えない、ということが示されています。ただし初期の急性吸入と慢性期の吸入や食事摂取とをどのように区別してゆくかという点がまだ曖昧です。さらにヨウ素131による汚染の類推が可能かどうか、という点も重要です。初期のデータ急性吸入の内部被ばくについてコンセンサスを形成し、認識を共有することが必要だと考えます。

第二の目的は、長期的に今後の福島県民の内部被ばくを出来るだけ抑えるための方策とはなにか、話し合いたいと思います。慢性内部被ばくの把握においては「繰り返し検査をする」ということが、おそらく基盤となります。その前提として、小児の測定や、高いバックグラウンドの処理などについて、機器の状況やアーチファクトを如何に抑えるかなど、の共通認識が必要になります。次に、例えば、農村で暮らし、自家産品をたくさん食べている人と、通常の流通食品を食べている人との違いなど、どのような対象者に、どれくらいの頻度で検査してゆくべきか、さらに2次精査のあり方はどのようにすべきかなど、今後のWBCの検査における方向性を見出してゆきたいと考えています。

第三の目的は、一般の県民が自分自身や家族の内部被ばくの低減をいかにして主体的に無理なく行えるか？そのためには、医療者や専門家、そして行政はどのように協力し、ネットワークを形成してゆくべきなのか、考えてゆきたいと思います。



福島県立医科大学マップ

⑧：臨床講義室

⑨：講堂

⑱：大学病院

㉓：緊急被ばく医療棟